

3 授業改革 —「学び」を工夫する—

本校の研究の柱である「学び」と「行動」を支援する中心的な場は授業です。本校では、授業改革のために強化週間を設定し、環境整備、板書の工夫、定期テストの工夫、ノート指導の工夫、聞き漏らしが多い生徒への指導の工夫、複雑な内容が聞き取れない生徒への指導の工夫などに取り組んできました。本節では、「授業改革—学びを工夫する—」への取組の概要や、授業（指導案）スタンダードなどについて述べます。

3.3.1 「学び」を工夫する？

「特別支援教育の視点に立って、『授業』をどのように変革していけばいいのでしょうか？」本校の取組は、こんな疑問から出発しました。

学習環境を整備することは、「学び」のスタートラインに立っただけです。LDの生徒にはどのような指導上の工夫が必要なのか、ADHDの生徒にはどのような配慮が必要なのか、短期記憶が弱い生徒や集中力が持続しづらい生徒にはどのような声かけが必要なのかなど、「特別教育の視点」に立って授業改革を実施しようとすると、疑問ばかりです。

そこで、全教職員で「授業改革」のアイデアや実践例を持ち寄ることを目的として、「授業改革のための強化週間」を設定し、研究に取り組むこととしました。

	実施期間	実施項目	実施内容
1	4/8(木) ～ 4/23(金)	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○スケジュールボード ○ロッカーの使い方 ○掲示物(前面をすっきり) ○提示装置の使用(明日の連絡)
2	4/26(月) ～ 5/14(金)	板書の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○区切って使い、半分は消さないで残しておく ○ねらいやポイントは枠で囲んで目立たせる ○板書の他に補助プリントやワークシートの使用 ○重要語句等はチョークの色と枠付けで工夫
3	5/17(月) ～ 5/28(金)	定期テストの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○読みやすい問題(行間、文章短く、明確化など) ○解答欄の工夫(欄を大きく、枠線をはっきり) ○出題の仕方の工夫(1つの設問で1つの解答)
4	5/31(月) ～ 6/11(金)	ノート指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートを区切ってどこに何を書くのかルールを決める ○必ずノートに書く内容は明確に指示する ○ノートに書くときに色や記号を指示する ○配布プリントやワークシートをノートに貼らせる
5	6/14(月) ～ 6/25(金)	聞き漏らしが多い生徒への指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○①体を向けさせる、②聞く姿勢や構えをつくらせる。その後、簡潔な指示を出す。 ○ポイントをはっきりさせ、注意を引いてから話す ○黒板に書く、指で合図を出す。 ○前置き(「今から指示を言うよ」など)をする
6	6/28(月) ～ 7/9(金)	複雑な内容を聞き取れない生徒への指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ポイントを視覚化する ○分かりやすく、混乱させない表現を使う ○難しい言葉は、質問を促したり、個別に声かけをする

本年度は、上記のような計画で、板書などの視覚的な工夫、定期テストの工夫、ノート指導やワークシートの工夫、聞き漏らしが多い生徒への指導の工夫、複雑な内容を聞き取れな

い生徒への指導の工夫の6項目について研究を行いました。

「今週は〇〇強化週間です」ということを意識して実践を工夫できるよう、職員室の出入り口の上部に取組項目を掲示したり、日報にも記載し、全教職員が意識的に取り組めるよう工夫しました。

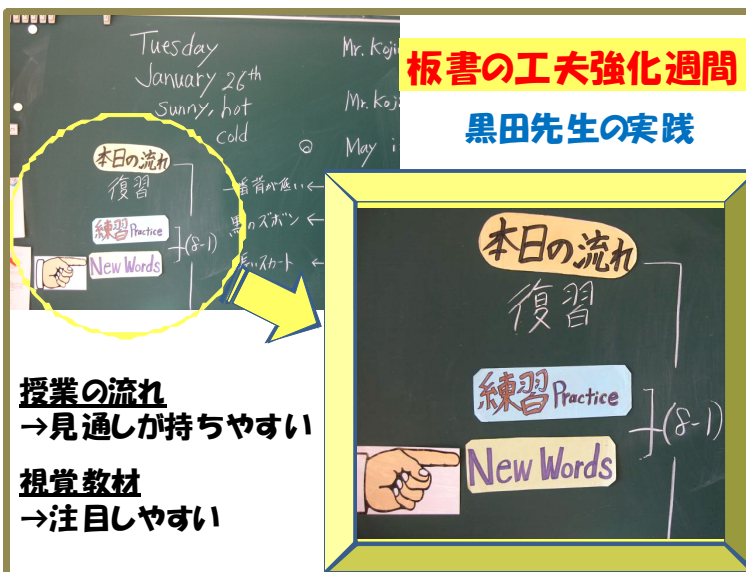
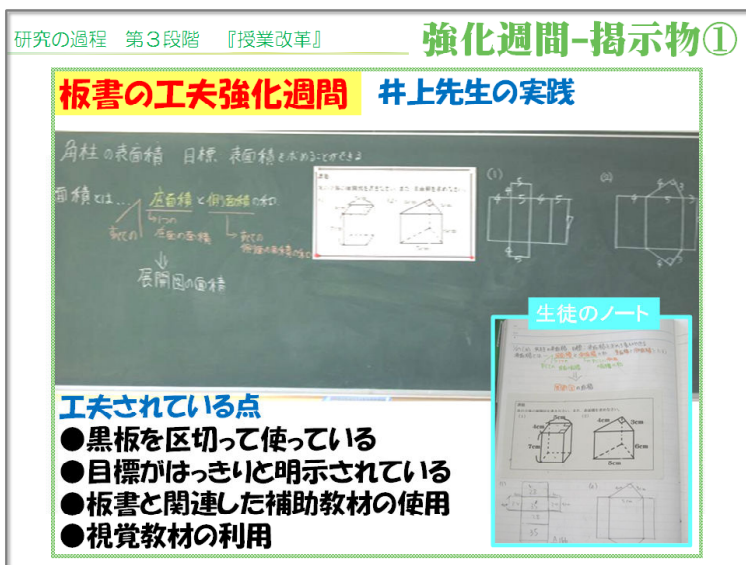
そして、強化週間の最終日には取組を振り返ることを目的としたアンケート調査を行い、取組内容や効果などを検証しました。

また、それぞれの教師が工夫している授業実践例を紹介するポスターを作成し、職員室や印刷室の目につきやすいところに貼り、工夫点の共有化に取り組みました。

「板書の工夫強化週間」では、横長の黒板と縦長の生徒のノートとの違いを意識し、黒板を区切って板書したり、本時は「何ができるようになればいいのか」を目標として明示したり、板書と関連した補助教材や視覚教材の利用などの工夫が教員間で共有されました。

また、英語の授業では、黒板の左端に、生徒が本時の学習内容や授業の流れをあらかじめ把握し、学習がしやすいよう「本日の授業の流れ」が示され、授業が展開されている例が報告されました。

板書をノートと関連させて構造化することや、本時の学習の流れを予め提示しておくことは、見通しを持つことが



苦手な生徒にとっては有効な支援になります。

また、視覚教材を活用することは、言語での理解が苦手な生徒にとっては有効な支援となります。

「定期テストの工夫強化週間」では、LDなど「読み」が苦手な生徒への支援を意識し、

- ・行間を空けている
- ・1行の文章が短い
- ・問題文を枠で囲み、問題文と設問の間が明確である

などの工夫が紹介されました。

小学校では、問題と回答欄が一緒の場合が多いですが、中学校では、問題用紙と解答用紙が別々な場合が普通です。問題と回答欄を一对一対応させることが苦手な生徒が多くなっていることを考えると、「特別支援教育の視点に立って『テストの工夫』が必要な時代」が訪れているのかもしれません。

生徒が「定期テスト」に積極的に取り組めるよう、教科毎にテスト対策プリントを作成し、生徒が自学自習できるよう「学習の手順」を、「難易度順に番号と文章で示す」1学年での工夫が紹介されました。

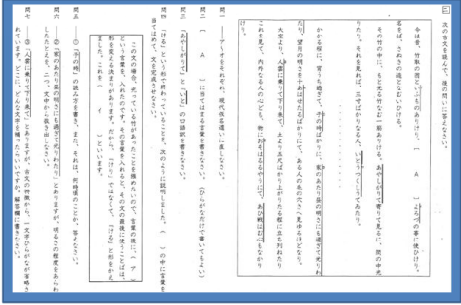
一人で学習できない生徒の困り感を想定し、「何を、どれくらい、どこにやったらいいのか」という学習の手引きは、発達課題を持った生徒だけではなく、多くの生徒にとっても有効な支援となります。

また、本校の学習指導案は、研究を通して数回改定され、現在のような形式になっています。

「学習指導案集」の「指導案の見方」にも掲載したように、

研究の過程 第3段階 『授業改革』 **強化週間-掲示物②**

定期テスト作問の工夫強化週間 栗林先生の実践



工夫されている点 <読みやすい問題である！>

- 行間を空けている
- 1行の文章が短い
- 問題文を枠で囲み、問題文と設問の間が明確である。

研究の過程 第3段階 『授業改革』 **強化週間-掲示物③**

1学年の実践

Goodアイデア!!

教科毎に、テスト対策プリントを作成。生徒が1人で学習できるように、学習の手順を、難易度順に、番号と文章で提示。

必修レベル：
1人で学習できない生徒を想定し、1人で行える手順を提示。何を、どれくらい、どこにやったらよいかを明確に指示する。

教科名	テスト範囲
国語	①教科書(p12~18 p56~59 p32~47) ふしぎ・理窟と謎 字の丸と家 ②漢字プリントNo1から漢字の読みと書き ③敬語を聞いて答える問題
ワーク	p4~6 p40~41 p25~34 p97~99 ※ワークは副読本が並びの巻で埋めて学年先生の机の上に提出する 提出はテスト日

- 漢字プリントNo1の漢字を漢字ノートに5語ずつ練習をする。
- 教科のテスト範囲を3回音読する。
- テスト範囲のワーク(p4~6 p25~34 p40~41)を自分で解いて自己検定する。
- テスト範囲のワーク(p97~99)の漢字をやって自己検定する。
- 漢字テストを自分で自主学習ノートで作って自己検定してみる。
- ワークの問題を2回解く。テスト範囲のワークの最初はノートに書えてやって自己検定してみる。もう1冊ワークにやって自己検定する。

研究の過程 第3段階 『授業改革』 **指導案**

(1) 特別な支援を必要とする生徒について

A	実態や課題	「～することができない。」といったできないことの実態だけを記述するのではなく、「～の支援を行うことで…することができる。」といった課題に対する具体的な支援を入れたプラスの記述をする。
	支援の方法	
B	実態や課題	
	支援の方法	

(2) 本時の授業における特別支援教育の視点に立った学習指導の工夫点

	環境整備	生徒の困り感に寄り添う支援の工夫を6つの視点から捉え、具体的な手立てを記述する。
	板書の仕方	
	ノート指導	
	指示や発問	
	学習過程	
	ICT	

指導案には、さまざまな工夫と意図が込められています。

例えば、

■「生徒の実態」の欄には、

単元の内容に対する生徒の実態（興味・関心、認識）や見方・考え方等にとどまらず、全体指導や集団と個を組み合わせた効果的な指導を展開するために、把握しておかなければならない集団としての実態についても記述する。

■「特別な支援を必要とする生徒について」の欄には、

「～することができない。」といったできないことの実態だけを記述するのではなく、「～の支援を行うことで…することができる。」といった課題に対する具体的支援を入れたプラスの記述をする。

■「学習指導の工夫点」の欄には、

支援を具現化するために、生徒の困り感に寄り添う行動支援のための工夫を、6つの視点から捉え具体的な手立てを記述する。本時の授業において、特に工夫する視点にチェックを入れ、どのような工夫をしているのか具体的に書く。

また、「展開」の欄では、「学習形態の工夫」「集団への手立て」「特別な配慮を要する生徒への支援」について記述するよう、指導案の形式を変更しました。

さらに、授業後、授業を振り返ることができるよう「授業振り返りシート」を作成し、授業の質を高めることにも取り組んでいます。

私たちは、「生徒の行動を調節し支援することで、学びの質を上げることができる」と考え、さまざまな工夫や実践を積み重ねてきました。

指導案の見方

第○学年○組 ○○科学習指導案

日 時：平成22年10月26日（火）第5校時

場 所：○年○組 教室

指導者：○○○○

1 単元名（教材名）

2 生徒の思いや願いと本単元の意図

(1) 単元・教材について

(2) 生徒の実態

(3) 指導観

単元の内容に対する生徒の実態（興味・関心、認識）や見方・考え方等にとどまらず、全体指導や集団と個を組み合わせた効果的な指導を展開するために、把握しておかなければならない集団としての実態についても記述する。

3 学校研究課題との関連

特別支援教育の充実とその視点に立つ学校教育の推進
～校内推進体制の構築と特別支援教育の視点に立った学習指導の在り方～

上記のように設定し、特別な支援を必要とする生徒への支援と6点に視点にあてた授業改善を図っていく。

(1) 特別な支援を必要とする生徒について

A	実態や課題	<p>課題に対する本時の具体的な支援の方法を記述する。</p> <p>参考資料：総合教育センター【特別支援教育担当】ホームページ 実態や課題 『ほんとうの私を見つけて』 支援の方法 『指導法例示ソフト』</p>
	支援の方法	
B	実態や課題	
	支援の方法	

(2) 本時の授業における特別支援教育の視点に立った学習指導の工夫点

	環境整備	<p>(1)の支援を具現化するために、生徒の困り感に寄り添う行動支援のための工夫を、6つの視点から捉え具体的な手立てを記述する。</p> <p>本時の授業において、特に工夫する視点にチェックを入れ、どのような工夫をしているのか具体的に書く。</p>
	板書の仕方	
	ノート指導	
	指示や発問	
	学習過程	
	I C T	

4 単元の指導計画

5 本時の学習指導

(1) 目標

(2) 展開

学習活動	学習内容	学習形態	集団への支援 (手だて・留意点)	特別な配慮を要する 生徒への支援	評価
<div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%; background-color: #f0f0f0;"> <p>特別な配慮を要する生徒にとって、学び合いによる学習効果は大きいと考えられる。 そこで、<u>集団と個を組み合わせた効果的な学習形態</u>を意図的に仕組む。</p> <p><記入の方法> 全体指導…全 個別指導…個 グループ学習…グ ペア学習…ペ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%; background-color: #f0f0f0;"> <p>設定した目標実現のために行われる学習活動を展開するにあたり、<u>全体への手立て(具体的な行動支援)</u>を、授業の流れに沿って明確に記述する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%; background-color: #f0f0f0;"> <p>特別な支援を必要とする生徒の学習活動におけるつまずきを想定し、全体への手立てと連動させ、個に対する行動の支援を、いつどのような支援をするのか具体的かつ、授業の流れにそって明確に記述する。</p> </div> </div>					

(3) 板書計画

6 備考 男子○名 女子○名 合計○名

深谷中学校「授業」振り返りシート

・ A:よくできている B:やれる時もあるが、課題がある C:全くできていない →欄に○をつけて下さい

0 授業の前に、環境や準備は整っているか		A	B	C
	(1) 教室は整理整頓されているか			
	(2) 黒板はきれいになっているか			
	(3) 黒板に不要な掲示物や書き込みはないか			
	(4) 机上是整理されているか			
	(5) 生徒は姿勢良くいすに座っているか			
	(6) 授業の始めと終わりにしっかりとあいさつができていますか			
	(7) 学習と行動の目標が明確になっているか			
	(8) 活用したい既習事項は明確になっているか			
I 板書計画を立てて、授業を行っているか		A	B	C
	(1) 本時の課題が、黒板に明確に示されているか			
	(2) 1時間の思考の流れがわかる板書になっているか			
	(3) 生徒の考えが板書に残っているか			
	(4) 本時のまとめやポイントが書いてあるか			
	(5) 1時間の振り返りができるような板書になっているか			
	(6) 色チョークを活用して、ポイントが示されているか			
II 生徒にノートの使い方を指導していますか		A	B	C
	(1) 今日に日付が、ノートに書いてありますか			
	(2) 本時の課題が、ノートに明確に書いてあるか			
	(3) 生徒自身が考えたことや気づいたことが書いてあるか			
	(4) 間違えたことも消さないで、新たな考えを書くようになっているか			
	(5) 本時の振り返りが、生徒の言葉で書かれているか			
	(6) 「Myノート」づくりに、本人の一工夫を促しているか			
III 生徒の思考を促す指示や発問をしているか		A	B	C
	(1) 指示は短く、明確にされているか			
	(2) 指示は1回を基本として、指示は生徒に通っているか			
	(3) 指示の確認をしているか			
	(4) 発問の計画を立てて授業を行っているか			
	(5) 生徒の思考の揺さ振りを意図した発問をしているか			
	(6) 指示や発問は、生徒間の関わりを促すことに役に立っているか			
IV 学習過程を生徒に見えるようにしているか		A	B	C
	(1) 1時間の授業が見渡せるような工夫はあるか			
	(2) 生徒が、「今は何をするときなのか」が視覚的にわかるようになっているか			
	(3) 生徒が考えをまとめる時間は確保されているか			
	(4) 生徒が繰り返し学習する時間は確保されているか			
	(5) 生徒が「知識や技能を活用する時間」は確保されているか			
	(6) 10分前後のまとまりを意識した活動計画になっているか			
	(7) 集中力が切れたり姿勢の悪い生徒に対して指導の工夫をしているか			
V ICTを計画的に活用しているか		A	B	C
	(1) ICTを活用し、生徒にわかりやすく資料や情報を提示しているか			
	(2) ICTを、生徒自身の意見や考え方を発表する場面で活用しているか			

指導案スタンダード

※ 前年度第8回校内研修では教科部会を実施し、日頃の授業実践を特別支援教育の視点で再確認して支援のポイント洗い出しました。そして、今年度の本発表に向け、支援のポイントを再度まとめ直し、指導案作成のためのヒント集を作りました。

※ どの教科にも当てはまりやすい点について一覧にしてみました。展開部分などでは、教科の特性や合同訪問での指導案や指導を生かしてお書き下さい。

	特別な配慮を要する生徒への支援
授業前	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて授業に取りかかれるように、授業道具が机上に用意されていることを確認し、アイコンタクトできていることを認める合図を送る。 ・側に行き、授業道具が机上に用意できるように(声かけをする、見届ける)
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・「気をつけ」の号令に注目させ、背筋を伸ばして動きを静止し、気持ちを集中させる。 ・一斉に声を出し、礼の動作を行うことでけじめをつけさせ、次の行動に切り替えさせる。
指示 発問 説明	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に取り組みかかりやすくするために、授業に必要な物だけを準備させる。(必要な物を黒板に書いて提示する。) ・授業に必要な物以外をしまわせ、机を整える声かけをする。 ・声のトーンを変えて話すことで注目を引き、視線を教師の方に向けさせる。 ・前置きをして注意を引き、体と視線が教師の方に向いたかを確認する。 ・(本人に近づいて机をさわって、個別に名前を呼んで、アイコンタクトを送り)注目を引く。 ・話をする項目数を事前に伝え、見通しを持たせる。 ・聞き逃しをさせないために、短く、分かりやすい(明確な)言葉で話す。 ・(ポイントを黒板に書き、カードを使い)視覚的補助を加え、分かりやすくする。 ・作業しているときに指示を出さない。 ・全体への指示後、個別の声かけをする。 ・指で項目数を示しながら、アイコンタクトをして注目できているか確認する。 ・強調箇所をゆっくり、強く、繰り返す。 ・見通しが持てるように、(完成図、完成形、見本)を提示する。 ・どのように進めればよいか分かるように、手順や手立てを(黒板に提示する、プリントで配布する) ・授業の流れを提示し、1時間の見通しを持たせる。 ・目標を前もって提示することで、本時のポイントやキーワードを明確にし注目しやすくする。
板書 ノート指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイント(ねらい、重要語句、覚えてほしい内容)を(枠で囲み、色を変え)目立たせる。 ・みんなと同じように(作業が進められる、ノートがとれる)ように、板書の他に、ワークシートや補助プリントを使用する。 ・ノートを書く時間を確保する。 ・どこに、何を、書いたらよいか声かけをする。 ・必要最低限ノートに書く内容を明確に指示する。 ・補助プリントをノートのどこに貼ればよいか声かけをする。 ・プリントがファイリングできたことを見届ける。 ・ノートに貼りやすいサイズにプリントをカットしておく。(ファイリング用のプリントには穴をあけておく。)